

県本部・活動拠点本部会議（8月24日・夕）議事要旨

■決まったこと、全体への連絡事項

- ・ 桜ヶ丘別荘（小規模多機能）利用者の移動先決定：15名のうち9名が「すずらの里」、6名が「氷川公民館」へ移動することが正式決定。
- ・ 厚労省審議官視察の動向・連絡運用：11:00に八代市役所を出発し、12:00頃に「不知火防災」着予定。全社協の同行はなく審議官のみで訪問予定。八代市役所を出た時点で厚労省から拠点に一報する。

■各拠点からの報告 ※特記事項

● 八代地域

- ・ 追加の要支援者名簿約300～320件中、残り80件となり、明日～明後日で訪問完了の見込み。
- ・ 第二中学校にて要支援高齢者が確認されたため、災害支援ナースのSOSを受け明日からラウンド訪問を開始予定。
- ・ 「希望の里（太陽）」は要配慮者3名・ご家族3名の計6名（3世帯）のみ残留。
- ・ 市内38箇所の避難所は8月31日を目処に13箇所へ集約・縮小予定。

● 宇城地域

- ・ 避難所4箇所で25件の意向調査を実施。
- ・ 社会福祉士会の「被災高齢者等把握事業（0クール）」が開始。ボランティア依頼約500件を基に対象を絞り込み訪問調査を進行中（DWAT情報と連携）。
- ・ 社協による「支え合いセンター」が9月中旬頃の開設に向け準備中。

● 氷川地域

- ・ 26日の移動に向け不安解消のためのアセスメントラウンドを継続。
- ・ 氷川公民館に要介護・要配慮者が相次いで移動するため、介護ニーズ増大に対する現地支援団体の懸念がある。

■共有事項・確認事項

●在宅避難者調査の二重化防止

- ・ 社会福祉士会の「被災高齢者等把握事業」とDWATの巡回調査で訪問先が重複しないよう情報照合を行う。

●退所・在宅復帰者の引き継ぎ

- ・ 避難所から自宅に戻る対象者を地域包括支援センターや「支え合いセンター」へスムーズに引き継ぐための情報共有・管理方法を整備する。

・

●八代市福祉避難所データの把握

- ・ 福祉避難所データについて、自治体担当者へ直接問い合わせて最新状況を収集・共有する。

■今後検討が必要な事項

●福祉避難所の継続判断と残留要配慮者の行き先確保

- ・ 「希望の里」残留者 3 世帯の転所先確保および、8 月 31 日の避難所集約に伴う福祉避難所の継続・閉鎖判断（9 月 1 日～3 日頃に判断）。

●氷川公民館における介護支援体制の強化

- ・ 介護度の高い避難者の集約に伴う介護ニーズ急増への対応および人員体制の再検討。

●自治体間（八代市-氷川町）の物資・支援連携と「チーム熊本」としての共通認識構築

- ・ 八代市と氷川町の間で支援物資や人員の抱え込みが生じている現場課題を受け、自治体の枠を超えた円滑な相互支援体制の再構築が急務。